

令和7年度

「運営に関する計画（最終評価）」

大阪市立伝法幼稚園

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 昨年度は、園内の自然環境を見直し、豊かな自然環境を整えながら保育に取り入れたことや、保育所・小中学校、消防署や警察署など、様々な地域の関係諸機関との交流の機会を多くもつことができたことで、教育内容の充実と理解につながった。昨年度末の保護者アンケートでは、全ての項目において肯定的な回答の割合が100%となった。また、年度目標として掲げていた、保護者アンケートにおける全ての項目において、最も肯定的な回答の割合を80%以上にするという目標も達成することができた。教職員間で新たな取り組みを模索しながら、幼児一人一人の実態に合わせた保育を実践していくことで、「知・徳・体」をバランスよく取り入れた、遊びから学ぶ幼児の育ちにつながるよう、更なる教育内容の充実を図っていききたい。
- 昨年度から「主体的に遊ぶ中で、自然との関わりを通して、好奇心や探究心を育む」ということを研究テーマとし、自然豊かで広い園庭の中で「伸び伸びと体を動かすことができる環境」「季節に応じた自然や身近な生き物に触れられる環境」を整え、保育の工夫、充実に取り組んできた。今年度は教職員の半数が入れ替わる中で、園の特色や保育内容を引き継ぎながら、目標を明確にしていき、全員で共通理解をもって取り組むことができるよう、充実した教育活動に努めたい。
- ホームページや「でんぼうっこ」のクラスだより、園長室だよりを通して教育内容を発信してきた。毎日ホームページを更新することで、できるだけその日にあったことをその日のうちに保護者や地域に発信できるように力を入れてきた。今年度も開かれた幼稚園として保護者への発信が行われるよう、継続して取り組んでいきたい。また、更なる地域への発信の工夫にも取り組み、公立幼稚園として地域の未就園児施設の中心的役割を担えるよう取り組んでいく。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- ・幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。
  - ・お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のこと大切にする気持ちが育っていますか。
  - ・幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- ・遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく育む保育を実践していますか。
  - ・お子さまは様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか。
  - ・幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の職場内アンケート・保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ・仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか。
- ・様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか。
- ・幼稚園は様々な方法（でんぼうっこやホームページ等）で教育内容を知らせていると思いますか。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 学校園の年度目標

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ・幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。
- ・お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のことも大切にする気持ちが育っていますか。
- ・幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 学校園の年度目標

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ・遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく育む保育を実践していますか。
- ・お子さまは様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか。
- ・幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 学校園の年度目標

○年度末の職場内アンケート・保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ・仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか。
- ・様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか。
- ・幼稚園は様々な方法（でんぼうっこやホームページ等）で教育内容を知らせていると思いますか。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【安全・安心な教育の推進】

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、結果は以下ようになった。

- ①幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。・・・95%
- ②お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のことも大切にする気持ちが育っていますか。・・・79%

③幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。・・・93%

①・③の項目は、最も肯定的な回答の割合が、年度目標と中期目標を上回り、保護者アンケートの結果、高い評価を得ることができた。②に関しては、最も肯定的な回答の割合は目標に達成しなかったものの、肯定的な回答の割合は100%であった。

今年度は、避難訓練を行う際に事前の計画段階で、様々な場面を想定しながら避難計画を立てた。特に防犯の避難訓練では、予告なしで臨機応変に対応できるような訓練を計画し、教職員の意識をより一層高められるような取組となった。終業式には、「ヒヤリハット」を用いた指導を行う等、幼児だけでなく保護者への啓発も図ることができた。

週に1回担任間で保育の計画を話し合い、異年齢での交流の機会を日常的にもつようにしたことで、5歳児が自然と優しく遊びを教えていたり、3・4歳児も憧れの気持ちを持ち、親しみをもって一緒に遊んだりする姿が見られた。クラスの活動では、幼児が自分の思いを伝えたり、友達のことを聞いたりする機会を大切にしてきたことが、上記アンケートの②や③の評価につながったと考えられる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、結果は以下のようになった。

①「遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく育む保育を実践していますか」・・・98%

②「お子さまは様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいきますか」  
・・・81%

③「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか」・・・95%

①・③の項目は、最も肯定的な回答の割合が、年度目標と中期目標を上回り、保護者アンケートの結果、高い評価を得ることができた。②に関しては、最も肯定的な回答の割合は目標に達成しなかったものの、肯定的な回答の割合は100%であった。

今年度の幼稚園の研究テーマ「身近な自然に興味や関心を持ち、関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む」に基づき、園内の自然環境を見直し、日々保育の中に取り入れたり、それを再構築しながら保育内容の工夫に努めたりした。また、幼児一人一人の実態に合わせた保育を取り入れ「知・徳・体」をバランスよく育めるよう細かな打ち合わせを行ってきた。日々の保育を共有し、教職員が同じ目標に向かって、共通理解をもって取り組んできたことが高い評価への要因になったと考えられる。

③の項目では、生活習慣について映像や実体験を大切にしながら分かりやすく指導していったことで、幼児自身が自分で取り組もうとする姿勢が見られるようになった。そのような姿や、今年度も「ふりかえりシート」を用いて保護者啓発をしてきたことが、高い評価への要因になったと考えられる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○年度末の職場内・保護者アンケートにおける、次の項目について、結果は以下のようになった。

①「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか。」・・・91%

②「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」・・・100%

③「幼稚園は様々な方法（でんぼうっこやホームページ等）で教育内容を知らせていると思いますか」・・・93%

①では、校務支援パソコンが一人一台あることや、例年データ等効率化が図られていることあり、働き方改革は進んでいると思われる。また、長期休業中に教職員間で互いに調整しながら年次休暇を取得できるようにした。普段の保育日でも、自身の仕事を調整しながら、時間単位で年次休暇を消化できたことが、高評価につながったと思われる。

②では、教職員一人一人が、様々な研修に積極的に参加した。また、一人一人が行った研修の内容を回覧したり、学びになったことを話し合ったりすることで、教職員全体の資質向上につながったと思われる。

③では、保護者アンケートにおいて「その日の遊びをほぼ毎日ホームページにあげてくれるのでクラスの遊びがよく分かる」という意見や「でんぼうっこは一人一人の写真をあげてくれることがすごく嬉しく、4月から毎月大切に保管している」「園長室だよりは先生の頑張りが伝わる」等の意見があり、教育内容の理解を得ることにつながっていると考えられる。また、保護者と幼児のコミュニケーションツールになっていることもあり、高評価の要因になっていると思われる。

- ・今年度は、教職員が半数変わる中で、園内の自然環境を年度当初から確認しあい、豊かな自然環境をうまく活用できるように保育を行ってきた。また、4年間の学校運営の中期目標に向かって、様々な交流を計画してきた。保育所・小中学校、消防署や警察署など様々な地域との交流の機会を多くもつことができたことも、教育内容の充実と理解につながったと思われる。幼児が互いの良さを認め合うことができるよう、教職員は一人一人の幼児理解に努め、保護者とともに幼児の育ちを支えていけるよう、教育内容の充実に努めていきたい。また、地域との連携も継続し、地域の中で育つ幼稚園として教育活動の理解を得られるよう努めていきたい。中期目標については、達成できなかった点を今後の教職員の課題とし、さらなる研鑽を重ね、資質向上を図っていきたい。

## 大阪市立伝法幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。</li> <li>・お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のこと大切にする気持ちが育っていますか。</li> <li>・幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【施策1-6、安全教育の推進】</p> <p>安全への意識を高めるため、防災・防犯教育の指導計画を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練年間計画を作成し、月に1回避難訓練を行う。</li> <li>・幼児や保護者が防犯・防災意識を高められるような職員による啓発活動を年1回以上行う。</li> <li>・関係諸機関と連携し、教職員や幼児の学びの機会を年2回以上行う。</li> </ul>	A
<p>取組内容②【施策2-1、道徳教育の推進】</p> <p>様々な人との関わりを通して、自己肯定感を高めたり、互いを認め合えたりできるような指導内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動を年6回以上行う。</li> <li>・様々な人(異年齢・地域・近隣の教育機関・未就園児)との交流活動を月2回以上もつ。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【施策2-4、インクルーシブ教育の推進】</p> <p>個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成・活用し、個々に応じた支援・指導に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上、園内委員会をもち、教職員の共通理解を図る。</li> <li>・特別支援教育や人権教育における研修会に、全教職員が年2回以上参加し、園内で伝達研修を行う。</li> </ul>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①・年度末の保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか」という項目における最も肯定的な回答の割合は95%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づいて避難訓練を行った。毎月ねらいをもって避難訓練を行ったり、避難訓練実施後の反省を次回に生かしたりしてきたことで、教師はその場の状況に応じて臨機応変に幼児を避難させたり、教職員間で連携をとりながら動いたりすることができるようになった。また、幼児は放送やベルの音を静かに聞いたり、教師のもとへ集まったりすることができるようになった。地震の時にはすぐに近くにあるものを使</li> </ul>	

って頭を守ることを理解し、安全に避難しようとする姿が見られるようになった。

- ・幼児や保護者が園内での安全意識を高められるような啓発活動をし、3学期始業式に行った。幼児は普段の保育での指導をよく覚えており、歯ブラシをくわえたまま歩かないことや、安全な用具や遊具の使い方などを再確認することができた。
- ・10月、12月には、消防署と連携をとって避難訓練を行った。消防士の指導のもと教師が消火訓練を行ったり、避難訓練後に幼児が消防車を見たりして意識を高めることができた。

- ②・年度末の保護者アンケートにおいて、「お子さまは『自分が好き』『友達が好き』という気持ちを持ち、自分のことも友達のこと大切にする気持ちが育っていますか」という項目について、最も肯定的な回答の割合は79%であった。
- ・挨拶運動は計画的に行うことができた。5歳児が挨拶運動をする姿を見て、3・4歳児も自ら挨拶をする姿が年度当初より増えた。
  - ・他学年、同学年のクラス共に活動を見合ったり交流したりする機会を週回以上設けた。日常的にクラスを行き交い、DENや絵本室など共同の場で自然と異年齢が集まって遊ぶ姿が見られるようになった。生活発表会では劇遊びや合奏などを見合い、3・4歳児は5歳児への憧れの気持ちを持ち、新しい遊びに挑戦する姿が見られるようになった。また、5歳児は年下の幼児に優しく関わろうとする姿が見られるようになった。さらに、うさちゃんクラブ（未就園児活動）や地域の小学校（伝法、高見、四貫島）や、れんげ保育園と交流をし、様々な年齢の人と関わる機会をつくったり、「母子の交通安全教室」に参加したりしたことで地域に親しみをもち、関わりを深めた。
- ③・年度末の保護者アンケートにおいて、「幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか」という項目について、最も肯定的な回答の割合は93%であった。
- ・月初めの園内委員会での話し合いに加え、日々教職員同士でその日の幼児の様子について話し合いをし、一人一人に合った関わりや言葉がけの共通理解を行った。その結果、個々の育ちを支えていけるようになった。
  - ・特別支援教育における研修会に複数回参加し、知識を深め学んだことを園内で共通理解し、園全体で支援が必要な幼児を支えていくことができた。
  - ・巡回指導(9月)で専門家からの助言を基に、個々に応じた具体的な支援について学ぶ機会をもち、全教職員で学びを共有した。

#### 次年度への改善点

- ①・教職員が実際の場面の想定をして臨機応変に動いたり、幼児の避難・誘導をしたりすることができるような立案、打ち合わせを行う。
- ②・今後も、教師が手本となり幼児へ働きかけたり、保護者への啓発を促したりして、日常的に挨拶を交わす心地よさを感じられるようにしていく。
- ・今後も活動を見合い、日常的に交流を重ねられるよう計画を立て、互いの活動に興味や関心、親しみをもてるようにしていく。また、地域の交流や行事に参加することで、住んでいる地域に親しみを感じられるようにする。
- ③・月1回の職員会議において、園内委員会を継続して行ったことで、教職員間で意見を出し合い、個々の幼児への支援の在り方や保護者との連携のとり方について話し合うことができた。次年度も引き続き、コーディネーターを中心に機会をもつようにする。
- ・特別支援教育の研修会や巡回指導で指導を受けることで、具体的な支援の在り方についての知識を深めることができた。今年度も区役所や子ども相談センター等の関係諸機関と連携を取り、引き続き幼児の育ちを支えていくようにする。

## 大阪市立伝法幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>学校園の年度目標</b> ○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ・遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく育む保育を実践していますか。 ・お子さまは様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか。 ・幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3-1、就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】 就学前教育カリキュラムを活用した保育実践を行う。	A
指標 ・就学前教育カリキュラムに関連した研修会に年4回以上参加し、園内で伝達研修を行う。 ・学期に1回以上就学前教育カリキュラムについて保護者への理解を図る。	
取組内容②【施策4-1、言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成)】 身近な自然に興味や関心をもち、主体的に遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む。	B
指標 ・月1回以上園庭や園内の環境構成について話し合い、自然や生き物に触れ合えるような環境の工夫と保育の充実に取り組む。 ・自分の気付きや考えを表現したり、友達の思いを受け入れたりできるように、クラスでの話し合いの時間を週2回以上もつ。	
取組内容③【施策5-2、健康教育・食育の推進】 基本的な生活習慣を身につけられるよう、指導を工夫する。	A
指標 ・生活習慣に関する指導を月1回行う。 ・保健指導の内容の保護者啓発を月1回行う。 ・家庭での生活習慣に関する取り組みカードや、保健指導の振り返りシートを年5回行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ・年度末の保護者アンケートにおいて、「遊びを通して、『知・徳・体』をバランスよく育む保育を実践していますか」という項目における最も肯定的な回答の割合は98%であった。 ・就学前教育カリキュラムに関連した研修会で学んだ内容を教職員同士で伝達し合い、幼児の実態に沿った保育を展開していくことや、幼児の主体性を引き出す関わりなどについて学びを深めた。 ・クラスだよりを作成する時に、必ず「知・徳・体」の視点を入れ、幼児の育ちや教育的意図をもった教師の働きかけ等を記載した。また、就学前教育カリキュラムの具体的な内容を理解できるよう、2学期の終業式で保護者への講話を実施した。	
② ・年度末の保護者アンケートにおいて、「お子さまは様々な活動を通して、自分の思い	

や考えを表現することを楽しんでいきますか」という項目における最も肯定的な回答の割合は81%であった。

- ・年間を通して季節の移り変わりや自然に気付いたり、関心をもったりできるように園内の環境を整えてきた。冬には栽培や収穫（ミカン、ユズ、カブ、ホウレンソウ、ニンジン、ダイコン、シイタケなど）を経験し、家庭に持ち帰ることでより栽培物に関心をもつようになった。また、冬ならではの事象（氷づくり、雪など）に気付いたり発見したりするなど、遊びの中で幼児が身近な自然に親しみを持ち、関わって遊ぼうとするような環境や働きかけを、日常的に職員同士で話し合ってきた。そうしてきたことで、幼児自身が、生活の中でいろいろな気付きをもったり、遊びの中に取り入れるために考え工夫したりするなど、好奇心や探究心につながる姿が見られるようになった。
  - ・様々な活動の中で、自分の感じたことや考えたことを伝えるだけでなく、友達の思いや考えを聞いたり受け入れたりするなどの話し合う機会を週2回以上設けた。「自分の考えを話したい」「友達の話も聞きたい」などの表現を楽しめるように取り組んできたことで、友達との関わりも深まった。
- ③・年度末の保護者アンケートにおいて、「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか」という項目における最も肯定的な回答の割合は95%であった。
- ・生活習慣が身につく健康的な幼稚園生活を送れるよう、月1回の保健指導の機会や日々の生活の中で、幼児の発達や課題に合わせた指導を実施した（歯みがき、手洗い、トイレの使い方、熱中症、清潔、食育、感染予防、早寝早起き、手洗いなど）。実物を使った体験、スライドや動画、実践形式、教師による寸劇など、指導内容に合わせた教材の工夫を行ったことで、より幼児にわかりやすく効果的に伝えることができた。
  - ・保護者に園での取組を共有できるよう、ほけんだよりやホームページで毎月1回知らせるとともに、保護者への講話を3回（弁当参観時、1学期終業式、2学期終業式）行った。また、こども展覧会では今年度も保健コーナーを設け、保健指導の内容を保護者も一緒に体験できるようにしたことで、園の教育への理解につなげた。
  - ・保健指導後の振り返りシートや、生活習慣に関する取組カードを年8回実施した。家庭で振り返る機会をつくったことで、園での指導の定着を図るだけでなく保護者への啓発にもつながった。食育の「野菜食べたよカード」では、たくさんの種類の野菜を食べるチャレンジに園の教師も一緒に実施し、「〇〇先生が食べたこの野菜、僕も食べた！」など話をする中で幼児の食への関心や意欲が高まった。

#### 次年度への改善点

- ①・就学前教育カリキュラムや、園の教育課程を活用しながら保育案や週案を作成し、教職員で共有しながら「知・徳・体」のバランスが取れた保育を実施する。
- ・今後も、クラスだより「知・徳・体」の視点を入れることや、就学前カリキュラムへの理解が深まるよう、具体的に伝わりやすい言葉での手紙を作成することに努める。
- ②・今後も、季節の移り変わりを感じたり身近な自然に関心をもったりできるように、教職員同士の話し合いを重ねたり、共通理解を図ったりして保育が充実するようにしていく。
- ・今後も、自分の思いや考えなどを表現する喜びを感じられるように、話し合う機会を日常的につくったり異年齢同士の関わりを増やしたりして、様々な考えや気持ちにふれられるようにしていく。
- ③・振り返りシートで幼児の理解度を測れるよう、保護者に幼児が考えたありのまま提出してもらうように伝えた。幼児の理解度をもとに自身の指導内容や指導方法の振り返りを行い、次年度の指導へとつなげていく。

## 大阪市立伝法幼稚園 令和7日年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○年度末の職場内アンケート・保護者アンケートにおいて下記の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか。</li> <li>・様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか。</li> <li>・幼稚園は様々な方法(でんぼうっこやホームページ等)で教育内容を知らせていると思いますか。</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7-1、働き方改革の推進】</p> <p>全教職員が健康で生き生きと働くことができよう、働き方改革における推進プランに基づいた取組を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革における推進プランに基づき、週2回(ゆとりの日を含む)は定時退勤できるよう、効率的に仕事を進める。</li> <li>・教職員の年次休暇を、年間で1人あたり10日以上取得する。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【施策7-2、教員の資質向上・人材の確保】</p> <p>保育内容の検討や教材研究を通して、教員の資質向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員1人2回以上園内研究会を実施する。</li> <li>・教員の資質向上のため、公私幼保研修会に1人1回以上参加し、保育内容の充実を図る。</li> <li>・1人年2回以上教材研究を行い、教職員で伝達研修を行う。</li> </ul>	A
<p>取組内容③【施策9-1、教育コミュニティづくりの推進】</p> <p>ホームページや家庭連絡を活用し、地域や保護者に園の活動内容や教育方針を発信し、開かれた園づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の特色や教育内容を広く発信するために、週2回以上ホームページを更新し、「でんぼうっこ」(クラスだより)を年5回以上発行する。</li> <li>・未就園児園庭開放の年間計画を作成し、地域や区役所の掲示板を活用しながら、学期に1回以上情報発信を行う。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①・年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」という項目における最も肯定的な回答は91%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議や担任間での打ち合わせ時に仕事の進捗状況を共有したり、仕事や保育の進め方を話し合ったりすることで、仕事の効率化を図った。しかしながら、行事前等に終業時間が遅くなることや、役職や経験年数の差から、週2回の定時退勤ができたのは約8割となった。</li> <li>・今年度の年次休暇取得状況として、8割の職員が2月現在すでに10日以上取得することができた。残りの2割の職員においても、3月中に取得予定である。</li> </ul>	

- ②
- ・年度末の職場内アンケートにおいて、「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」という項目における最も肯定的な回答の割合は100%であった。
  - ・全教職員が1回ずつ園内研究会を実施できるように年間計画を作成し、毎月の職員会議で誰がいつ行うかの確認を取るようになってきた。様々な分野の保育について学ぶことができ、経験年数が違う教職員同士だからこそその学びも多くあり、資質向上につながった。
  - ・教職員が、自身の学びのために参加したい研修会を選べるように研修情報を随時確認、回覧し、様々な研修会への参加を啓発したことで、教職員が計画通り研修会に参加することができた。研修後は研修内容や資料などを共有し、資質向上につながった。
  - ・製作遊びや生活発表会の劇や合奏、衣装づくりなど、日々の保育準備の中で教職員同士話し合ったり、教材研究を行ったりし、互いに学び合う機会を設けることができた。
- ③
- ・年度末の保護者アンケートにおいて、「幼稚園は様々な方法（でんぼうっこやホームページ等）で教育内容を知らせていると思いますか」という項目について、最も肯定的な回答の割合は93%であった。
  - ・「でんぼうっこ」は、年間を通しての計8回発行した。各クラスの具体的な幼児の姿や就学前教育カリキュラムにおける「知・徳・体」から見た幼児の育ちを分かりやすい言葉で示していくことで、保護者や地域の方々に幼稚園の教育内容の理解を図れた。また「園長室だより」では、クラスのことだけではなく、園の教育方針や保護者に啓発していきたいことを掲載し、より幼稚園教育の理解を深められるように努めた。
  - ・教職員が週4回以上はホームページの更新を行うことができている。年度末の保護者アンケートでは「行事の準備など見えていないところも、経過を見ることができてワクワクしながら行事を待ち望んでいる」「普段の何気ない日常を見ることができるとほっこりした気持ちで見ることができ」「子どもと話をするコミュニケーションツールとなっている」など、より一層閲覧数が増えた。
  - ・月1回以上未就園児園庭開放を行うことができている。その季節にあった活動内容を考え、在園児と遊ぶ中で、園での過ごし方や教育内容についても、発信することができた。

#### 次年度への改善点

- ①
- ・週2回（ゆとりの日を含む）の定時退勤を目標に、先の行事や業務を見通した上で、1週間の勤務にメリハリをつけるようにする。また、若手の職員も退勤しやすいよう、全体への声かけを継続する。
- ②
- ・園内研究会後に協議会内容をまとめ、園内研修支援シートを生かしたり、自身の保育の反省を残したりできるように、職員への声かけを行うようにする。研修や園内研究保育で学んだことを今後の保育にも生かし、更なる資質向上に努める。そのために、今後も各々の学びや気づきを週1回の保育の打ち合わせ時に共有する。
  - ・今後も日々の保育準備の中で教材研究や、保育内容を伝達して互いに学び合えるように話し合う機会を日常的に設けていく。
- ③
- ・今後も継続して「でんぼうっこ」「園長室だより」の作成、配布を行い、教育内容の理解を得られるようにしていく。また、地域の様々な場所（園や区役所、図書館、子育てプラザなどの掲示板）やホームページを活用して、更なる発信に努める。
  - ・参加してくださる未就園児の保護者のアンケートをもとに、どんな活動を取り入れるかを検討しながら、在園児と関わって遊べるようにしていき、ホームページや地域の掲示板などでの発信も続けていく。